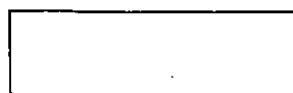


平成 28 年度島根大学大学院  
教育学研究科入試問題（Ⅱ期）  
《教育実践開発専攻（専門職学位課程）》

専門科目

注 意

- 1 問題紙は、指示があるまで開いてはならない。
- 2 問題紙 2 枚、解答用紙 2 枚、下書き用紙 1 枚である。  
指示があつてから確認し、解答用紙と下書き用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 解答は、解答用紙に清書すること。
- 4 問題紙は、持ち帰ること。



# 《教育実践開発専攻》

## 専門科目

## 問題紙 1

1 以下の(1)から(6)の文章の( )に当てはまる語句を答えなさい。

- (1) すべて国民は、ひとしく、その(ア)に応じた教育を受ける機会を与えられなければならず、人種、信条、性別、社会的身分、経済的地位又は(イ)によって、教育上差別されない。(教育基本法第4条第1項)
- (2) 「キャリア教育」とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、(ウ)を促す教育」であり、その中心として「人間関係形成能力・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」からなる「(エ)能力」を育成することが求められている。(中央教育審議会(2011)『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』)
- (3) 「生徒指導」とは、「一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、(オ)や行動力を高めることを目指して行われる教育活動」のことをいい、児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在および将来における自己実現を図っていくための(カ)の育成を目指すものである。(文部科学省(2010)『生徒指導提要』)
- (4) 学習指導要領において、「総合的な学習の時間」の目標は、「横断的・総合的な学習や(キ)を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、(ク)、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方(高校では「在り方生き方」)を考えることができるようとする。」と設定されている。
- (5) 19世紀末から世界的に展開された(ケ)は、日本では「大正自由教育」とよばれ、H.パーカストによる「(コ)」に代表される学習者の能動性を尊重した「児童中心主義」に基づく教育方法が用いられた。
- (6) L.コールバーグは、(サ)について3つの水準と6つの段階からなる発達段階を示した。第1の水準は(シ)と呼ばれ、行動の意味がもっぱら目に見える物理的な結果によって判断される水準である。

# 《教育実践開発専攻》

## 専門科目

## 問題紙 2

2 以下の（ア）～（エ）について、いずれかの語句を一つ選び、簡潔に説明しなさい。  
なお、選んだ語句を解答用紙に記入しなさい。

(ア)

- (1) 「生きる力」
- (2) 発達障害

(イ)

- (1) 習熟度別学習
- (2) ポートフォリオ評価

(ウ)

- (1) ピグマリオン効果
- (2) メタ認知

(エ)

- (1) 情報モラル教育
- (2) ESD (Education for Sustainable Development)

3 以下の問いに答えなさい。

(1) 学校教育法では、各学校に「学校評価」を行うことを義務づけている。その目的と意義について、次の2つの語句を用いて説明しなさい。

( 説明責任 ・ 公教育 )

(2) 国際化の進展に伴い、学校においても外国籍の児童・生徒や帰国児童生徒が増加している。それらの児童・生徒の中には、日本語で行われる授業の理解に困難を抱える児童・生徒もある。こうした日本語で行われる授業の理解に困難を抱える児童・生徒が在籍する学級において、学級担任はどのような点に配慮して学級経営を行うべきか、あなたの考えを理由とともに論じなさい。